

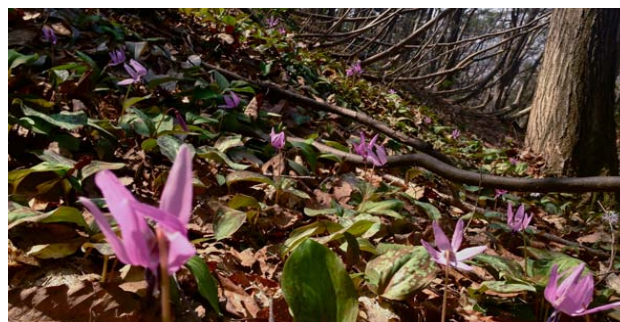


## SUWADA OPEN FACTORY

おだやかな春がやってきました。新潟の春は花が一斉に咲き始め、梅も桜も桃の花も一緒に咲きますので生命の強い躍動感を感じます。

FACTORY の裏山では、広葉樹林にしか自生しないカタクリが群生し、紅紫色の花畑が見頃を迎えます。山桜の花が終わるとようやく山は新緑に変わって行きます。

SUWADA OPEN FACTORY にお越しいただきますと周りの自然も一緒に満喫できます。皆様のお越しをお待ちしております！



### 鍛造・火造りで良い刃物になる



鍛造

SUWADA は刃物鍛冶です。良い刃物を作るために「材料を鍛える」鍛冶仕事は欠かせません。

鋼を叩いて鍛えることで硬く粘りのある素材に生まれ変わり、「良く切れる刃物」の材料へと変化させます。また、材料を火炉にくべて赤く熱し、何度も何度も手で叩き形状を変化させていく「火造り」の技術も今なお工場に残っています。

SUWADA の「鍛造」＝「材料の鍛え」は灼熱させた材料に 400tもの力を一瞬にかけて鍛え上げます。職人が材料の色だけを見てその温度を即時に判断しますが、適温に達していない材料はその場ですぐに捨てられます。



灼熱の丸棒を



400tの力で叩いて



火造り

数十本しか作らないような小ロットの品や試作品は、「火造り」で作り上げます。100年近く前から鍛冶仕事の現場で使われているスプリングハンマーですがFACTORYでは今でも現役です。これらの工程も今では珍しいものとなりましたがSUWADAが続けている三条鍛冶伝統の技術です。



つめ切りの原型をつくる

### 道具が物語るもの



火造りや成形の際に使用する金槌(つち)。写真左は10年ほど使用した槌、写真右は50年以上使用したものです。柄が手の形に凹んでいるのがわかります。SUWADA で使っている槌の柄は山桜。適度に衝撃を吸収してくれるので、好まれて使われています。裏山から桜の枝をいただいてきて、自分の手に合わせた木柄を作っていました。



機械もSUWADAでは手足となる大事な道具の一つ。中古の機械でも社内できちんとレストアやメンテナンスを施します。愛着を持って接すると、機械もちゃんと応えてくれる。「どうやったら使い勝手が良くなるだろうか」FACTORY内では今日も、職人が機械と対話しながら仕事を続けています。

### 今後のイベント・出展情報

4/27 燕三条「まちあるき」～石川雲蝶と諏訪田の技を訪ねて

専属のガイドが丁寧にご案内するツアーです。お申し込みは <http://www.tsubasan-aruki.jp/>

<この件に関するお問い合わせ>

(株) 諏訪田製作所 総務 小林

TEL: 0256-45-6111

e-mail: [suwada@suwada.co.jp](mailto:suwada@suwada.co.jp)